

2010年度防災教育チャレンジプラン

西大和6自治会連絡会
(桜ヶ丘2丁目自治会)

主催者

内閣府

防災教育チャレンジプラン 実行委員会

- 目的
- いつやってくるか分からない災害の備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあった時、すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランである。
- そのため、より充実した防災教育プランを募集し、選出したプランの支援を行う。
- 1年間の実践の後、ワークショップやホームページで、広く公開・共有する。
- 最大30万円の活動支援金

実行委員会

- 委員長 林 春男 京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
- 委員 井上浩一 防災ネットワークプラン 代表
- (20名) 鍵屋 一 板橋区 総務部 契約管財課 課長
- 木村玲欧 富士常葉大学 環境防災学部 准教授
- 国崎信江 危機管理アドバイザー 危機管理教育研究所
- 栗田暢之 特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事
- 澤野次郎 災害救助ボランティア推進委員会 委員長
- 篠田貴司 東京都葛飾区立綾瀬中学校 教諭
- 諏訪清二 兵庫県立舞子高等学校 環境防災科 科長
- 田村 拓 ㈱CSKホールディングス 社会貢献推進室長
- 中川和之 時事通信社 防災リスクマネジメント Web編集長
- 平田 直 東京大学地震研究所 所長
- 福和伸夫 名古屋大学大学院 環境学研究所 教授
- 船木伸江 神戸学院大学 学際教育機構 防災社会ユニット 専任講師
- 松尾知純 BOUSAI-GATE Partners 防災危機管理教育事業コンサルタント
- 南島正重 東京都立小石川校高等学校 主管教諭
- 越智繁雄 内閣府参事官 (地震・火山・大規模水害対策担当)
- 仲程倫山 内閣府企画官
- 飯島義雄 総務省 消防庁国民保護・防災部 防災課 課長
- 南山力生 文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室 室長
- 五島政一 国立教育研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究

2009年度

- ①滋賀県立彦根工業高等学校 かまどハンチ
- ②NPO日本沼津災害救助ボランティアの会 AEDマップ
- ③銚子「稲村の火」防災教育プロジェクト 紙芝居・人形劇
- ④宮城県丸森町立丸森東中学校 中学生・学校・地域
- ⑤あそびma・senka 盛岡市・ママの安心防災対策
- ⑥早稲田レスキュー 地図なしまち歩き
- ⑦Safety Leader Students Network 東京学芸大学・帰宅困難者対策
- ⑧和歌山県立新翔高等学校 防災紙芝居・古文書による過去の地震調査
- ⑨紀の川市立荒川中学校 託せ子供たちに・荒川の安全と未来を

2010年

- ①岩手県立釜石市立釜石東中学校 EASTレスキュー 助けられる人から助けるひと人
- ②中学生防災プロジェクトチーム 安城市・中学生防災隊
- ③西大和6自治会連絡会 要援護者対策・子供サバイバルキャンプ
- ④愛知県立半田商業高等学校 要援護者対策
- ⑤やさしい日本語 有志の会 京都市ボランティアグループ
- ⑥高津養護学校 高津地域ネットワーク推進会議 川崎市・要援護者支援
- ⑦西の地 防災きずな会 徳島県見浪町・自主防災組織市民作戦
- ⑧滋賀県立彦根工業高等学校 継続 かまどハンチ
- ⑨なでしこ 防災ネット 神奈川県秦野市・災害時の水の確保
- ⑩宮城県丸森町立丸森東中学校 継続 中学生 改援隊・学校・地域
- ⑪千葉県立千葉西高等学校 地域と高校生
- ⑫岡山一宮高等学校 防災カレッジ GIS活用データマップ
- ⑬社会福祉法人中土幌福祉事業会 北海道土幌市・少子高齢化
- ⑭NPOアイコレクティブ 山形県天童市・要援護者支援

プラン

災害時要援護者模擬避難訓練(新規)と
子どもサバイバルキャンプ(継続6年目)

● 要援護者避難訓練

自治会役員と民生児童委員が要援護者宅を訪問し、要援護者に見立てた人物を一時避難所(桜ヶ丘公民館)まで、誘導・お連れする。誘導者と避難所とはトランシーバで連絡を取りあい、避難所は状況を把握する。誘導は、担架、車いす、リヤカー、背負い等、何が必要か検証する。避難所も何が必要か検証する。期間は長期でなく3~5日間をイメージする。

● 子どもサバイバルキャンプ

高学年、低学年に分け、子供達にも考えさせ、ワークさせる。新規ゲーム等を取り入れる。

東京・有明の丘基幹的広域防災拠点施設にて プランの発表 平成22年2月13日



背景

- 2年前より、西大和6自治会連絡会防災部会で提起、いづれ取り組まなくてはならない課題。
- 昨年、民生児童委員は創立60周年で、防災対策(地震被害対策・要援護者対策)に取り組み、能登半島沖地震被害のヒアリングを実施。
- 上牧町社会福祉協議会も防災対策活動を始動。
- シルバークラブは友愛活動で80歳以上独居老人を訪問活動を実施。
- 消防署南分署も75歳以上の独居老人の訪問活動。
- 本格的に高齢者対策の社会的要求が高まっている。
- バラバラの活動でなく、これらを総合ネットワークで結び、役場、消防署、消防団の協力も得て自治会主体の活動を。

障害者の声

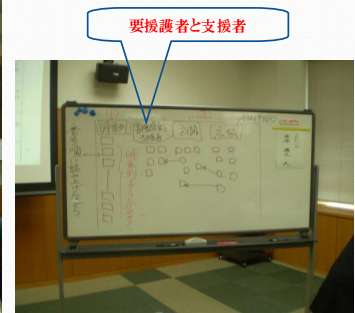
- 【災害発生時の心配ごと】

	%
自力で避難できない	29.0
家族以外で避難等に協力してもらえない人がいない	16.8
避難場所等がわからない	7.5
情報がわからない	9.3
連絡ができない、情報を伝えられない	3.6
その他	5.1
無回答	28.7
- 【災害時の備えとして必要と思われること】

	%
避難マニュアルなどの整備や、防災バザールの配布	21.3
防災教育・防災訓練の実施	3.3
情報伝達体制の整備	16.2
声掛け運動事務局防災担当など普段からの近隣との付き合い	22.5
公共施設、設備等の安全性の強化	9.6
その他	3.6
無回答	23.7

平成14年上牧町の障がい者の実態・意向調査より

社協 防災ボランティア活動研修会 21年11月25、26日 上牧町2000年会館会議室



組織(案)

- 主体 桜ヶ丘2丁目自治会、子供会
桜ヶ丘2丁目民生児童委員
西大和6自治会 会長、事務局防災担当
- 協力者 上牧町社会福祉協議会
上牧町消防団第8分団
- 賛助者 上牧町(総務部、住民福祉部、教育部)
西和消防署

スケジュール(案)

- 準備委員会の立ち上げ 3月
- 現状の把握(各所ヒアリング) 4月
- 先行事例の把握 4月
- 概略プランの作成 5月
- 住民アンケート 5月
- 概略プランの修正 7月
- 実行委員会の立ち上げ (準備委員会解散) 7月
- 実行計画の作成、実行計画の修正 7月
- 実行 8~9月
- 中間報告会(東京) 10月30、31日
- 結果のまとめ 1月
- 最終報告会(東京) 2月